2017年外来入院患者統計（2017年1月～12月）

■ 外　来 ■

月	初　診					再　診					合　計				
	消化器・肝移植外科	臨床腫瘍科・乳腺外科	乳腺・甲状腺外科	消化器病センター	ＩＢＤセンター	消化器・肝移植外科	臨床腫瘍科・乳腺外科	乳腺・甲状腺外科	消化器病センター	ＩＢＤセンター	消化器・肝移植外科	臨床腫瘍科・乳腺外科	乳腺・甲状腺外科	消化器病センター	ＩＢＤセンター
1月	48	49	90	255	19	1,115	883	957	4,241	1,083	1,163	932	1,047	4,496	1,102
2月	42	30	101	262	20	1,133	867	1,133	1,750	984	1,175	897	1,234	2,012	1,004
3月	47	41	82	262	33	1,208	995	1,352	4,660	1,267	1,255	1,036	1,434	4,922	1,300
4月	41	25	87	292	29	1,142	852	1,075	4,278	1,045	1,183	877	1,162	4,570	1,074
5月	35	30	71	274	29	1,116	891	1,106	4,462	1,081	1,151	921	1,177	4,736	1,110
6月	42	37	113	332	27	1,178	942	1,271	4,758	1,101	1,220	979	1,384	5,090	1,128
7月	37	25	80	284	15	1,050	926	1,160	4,512	1,108	1,087	951	1,240	4,796	1,123
8月	39	35	94	289	31	1,089	922	1,133	4,586	1,132	1,128	957	1,227	4,875	1,163
9月	44	38	91	314	36	1,109	877	1,268	4,817	1,138	1,153	915	1,359	5,131	1,174
10月	44	43	92	331	19	1,136	920	1,194	4,837	1,170	1,180	963	1,286	5,168	1,189
11月	51	35	101	323	25	1,098	918	1,121	4,698	1,115	1,149	953	1,222	5,021	1,140
12月	51	34	87	300	29	1,211	916	1,147	4,637	1,119	1,262	950	1,234	4,937	1,148
計	521	422	1,089	3,518	312	13,585	10,909	13,917	52,236	13,343	14,106	11,331	15,006	55,754	13,655

■ 入　院 ■

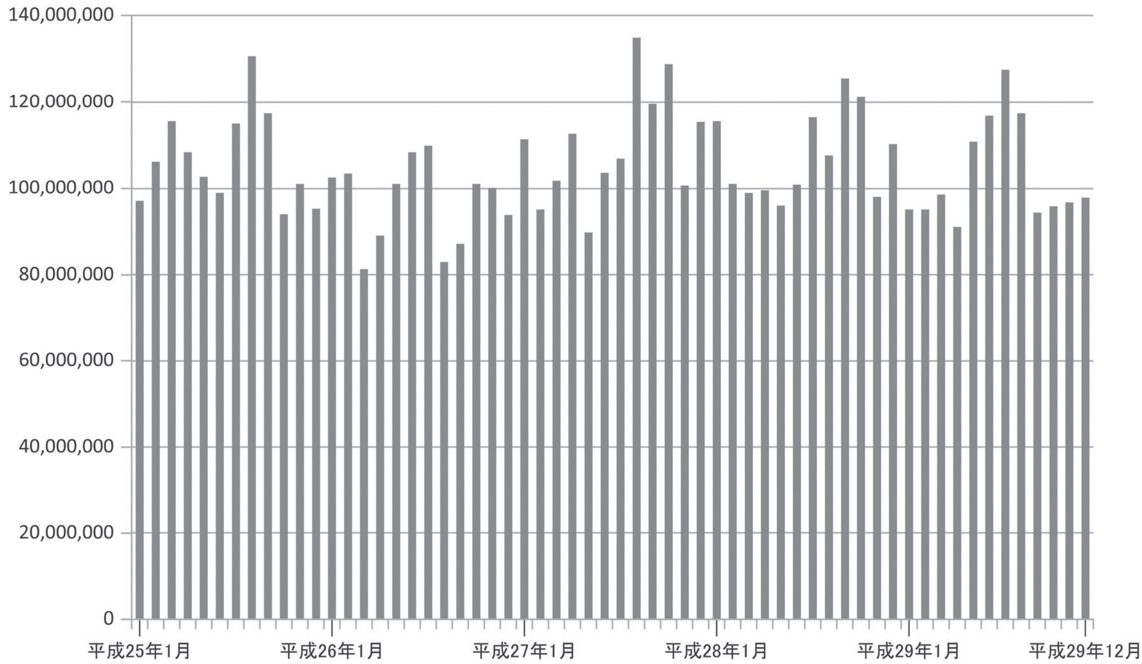
月	新入院					退　院					延入院数				
	消化器・肝移植外科	臨床腫瘍科・乳腺外科	乳腺・甲状腺外科	消化器病センター	ＩＢＤセンター	消化器・肝移植外科	臨床腫瘍科・乳腺外科	乳腺・甲状腺外科	消化器病センター	ＩＢＤセンター	消化器・肝移植外科	臨床腫瘍科・乳腺外科	乳腺・甲状腺外科	消化器病センター	ＩＢＤセンター
1月	83	42	32	265	28	76	36	27	230	19	1,293	520	290	2,647	361
2月	82	49	33	251	25	87	44	29	244	30	1,258	591	326	2,516	409
3月	89	42	35	261	29	83	54	38	273	30	1,365	617	357	2,589	379
4月	82	36	30	252	18	83	45	36	261	18	1,289	458	343	2,567	373
5月	90	46	31	256	34	82	45	27	247	29	1,341	417	299	2,373	431
6月	72	46	39	269	26	73	40	39	272	25	1,385	393	345	2,789	438
7月	83	45	31	261	30	89	52	33	269	35	1,451	504	300	2,858	552
8月	65	54	37	288	37	68	47	34	273	33	1,251	465	343	2,756	419
9月	90	43	35	280	26	93	48	38	291	25	1,450	520	300	3,070	489
10月	82	56	35	315	27	86	48	32	315	25	1,293	586	286	3,030	527
11月	68	38	38	270	36	70	42	39	274	40	1,211	535	357	2,771	470
12月	71	45	33	270	25	87	67	37	315	27	1,408	516	294	2,883	408
計	957	542	409	3,238	341	977	568	409	3,264	336	15,995	6,122	3,840	32,849	5,256

※ 数値は速報値です。

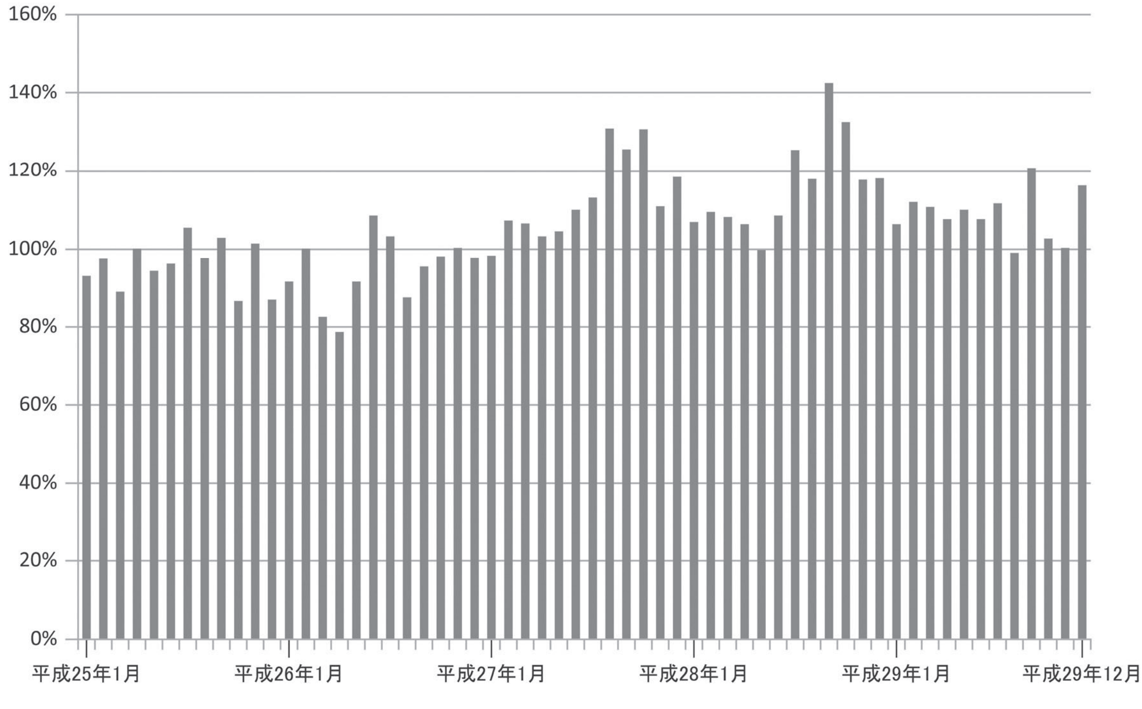
※ 延入院数は24時現在の在院患者数ではありません。退院患者も含まれています。

消化器・肝移植外科の最近5年間の診療指数の推移

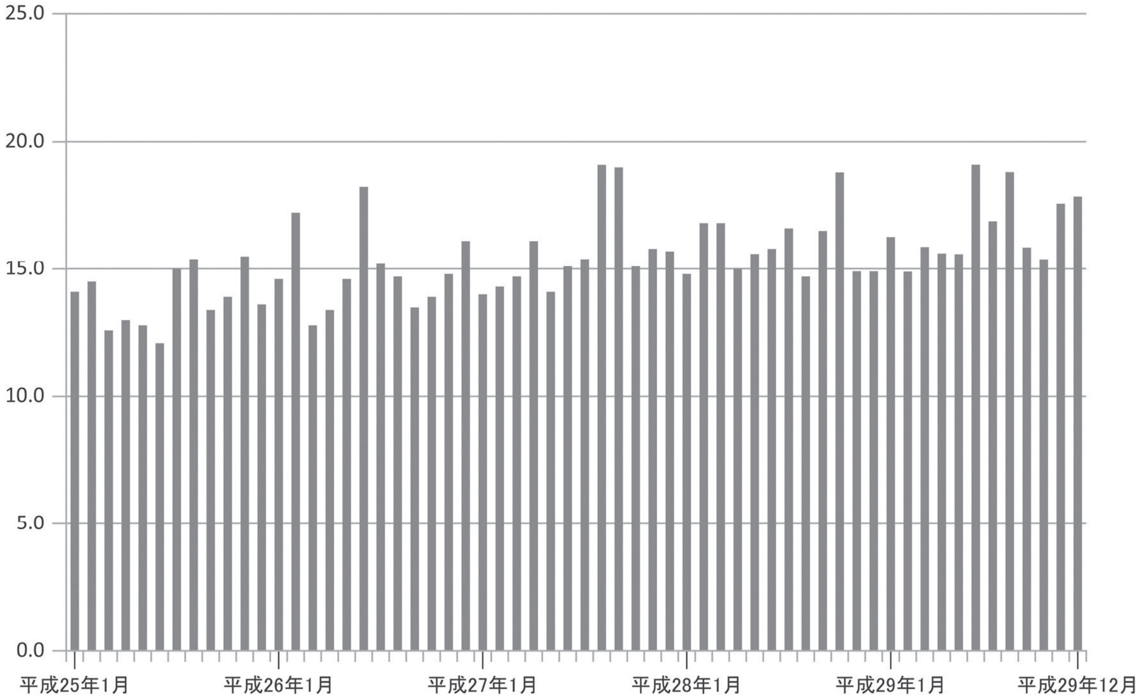
■ 稼働額（室料除く）■



■ 病床利用率 ■



■ 平均在院日数 ■



25.0
20.0
15.0
10.0
5.0
0.0
平成25年1月
平成26年1月
平成27年1月
平成28年1月
平成29年1月
平成29年12月

外来日程表

（2018年4月1日より）

横浜市立大学附属病院

		月　曜	火　曜	水　曜	木　曜	金　曜
消化器・肝移植外科	初診担当医	久保　博一		笠原　康平		松木　裕輝
	再診担当医	布施　匡啓	佐藤　清哉	武井　将伍	酒井　　淳	近藤　裕樹
	専門外来 担当医	**肝・胆・膵** 遠藤　　格 松山　隆生 土屋　伸広 **胃** 秋山　浩利 小坂　隆司 **大腸化療** 石部　敦士 小澤真由美		**肝・胆・膵** 遠藤　　格 本間　祐樹 澤田　　雄 藪下　泰宏 村上　　崇 **肝胆膵化療** 中山　岳龍 久保　博一		**肝・胆・膵** 松山　隆生 熊本　宜文 澤田　　雄 村上　　崇 **胃化療** 秋山　浩利 小坂　隆司 **大　腸** 石部　敦士 小澤真由美 鈴木　紳祐
臨床腫瘍科・乳腺外科	初診担当医	市川　靖史 菅江　貞亨	小林　規俊 後藤　　歩	市川　靖史	徳久　元彦	廣島　幸彦
	再診担当医	市川　靖史	後藤　　歩	廣島　幸彦 小林　規俊	徳久　元彦 後藤　　歩	廣島　幸彦 小林　規俊
	専門外来 担当医	**化学療法外来** 市川　靖史 後藤　　歩 廣島　幸彦 徳久　元彦 **乳　腺** 菅江　貞亨 鈴木　千穂 **大腸化療外来** 市川　靖史	**化学療法外来** 後藤　　歩 小林　規俊 徳久　元彦 （市川　靖史）	**化学療法外来** 市川　靖史 小林　規俊 廣島　幸彦 徳久　元彦	**化学療法外来** 市川　靖史 小林　規俊 廣島　幸彦 徳久　元彦 **NET** **（神経内分泌腫瘍）** 小林　規俊	**化学療法外来** 市川　靖史 後藤　　歩 廣島　幸彦 **乳腺化療** 菅江　貞亨

横浜市立大学附属市民総合医療センター

			月　曜	火　曜	水　曜	木　曜	金　曜
乳腺甲状腺外科	初診担当医 再来担当医			**乳腺外来** 成井　一隆 木村万里子 島　　秀栄 井上　　栞 山田　顕光 〈PM 月一回〉		**甲状腺外来** 益戸　功彦 松井　愛唯	**乳腺外来** 成井　一隆 木村万里子 島　　秀栄 井上　　栞
炎症性腸疾患(IBD)センター	初診担当医			木村　英明			木村　英明
	再来担当医			木村　英明 田村　裕子			木村　英明 田村　裕子
消化器病センター	初診担当医		渡邉　　純	國崎　主税	虫明　寛行 湯川　寛夫	國崎　主税 大佛　智彦	藤井　義郎
	午前	専門外来担当医	**下部消化管（大腸・直腸・大腸化学療法）** 虫明　寛行 渡部　卓央 渡邉　　純 柿添　　学 千田　圭悟 淺利　昌大	**上部消化管（食道・胃）** 國崎　主税 湯川　寛夫 宮本　　洋 佐藤　　圭 佐藤　　渉	**下部消化管（大腸・直腸・大腸化学療法）** 虫明　寛行 渡辺　卓央 柿添　　学 千田　圭悟 淺利　昌大 大田　貢由	**上部消化管（食道・胃）** 國崎　主税 佐藤　　渉 田中　優作 **肝・胆・膵** 藤井　義郎 矢澤　慶一	**肝・胆・膵** 藤井　義郎 矢澤　慶一
	午後	専門外来担当医	**下部消化管（大腸・直腸・大腸化学療法）** 虫明　寛行 渡邉　　純 柿添　　学 淺利　昌大	**上部消化管（食道・胃）** 國崎　主税 大佛　智彦 宮本　　洋 佐藤　　圭 佐藤　　渉 田中　優作	**下部消化管（大腸・直腸・大腸化学療法）** 渡辺　卓央 柿添　　学 淺利　昌大	**上部消化管（食道・胃）** 國崎　主税 宮本　　洋 佐藤　　圭 田中　優作 **肝・胆・膵** 矢澤　慶一 村川　正明	**ヘルニア** 交　代　制 **肝・胆・膵** 藤井　義郎 村川　正明
	緊急対応		末松秀明 ／ 堀内真樹 ／ 福岡宏倫 ／ 淺利昌大 ／ 池田孝秀 ／ 村上剛之				

2017年各施設入院手術統計

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	茅ヶ崎市立病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ケ谷中央病院	横浜中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター都立駒込病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	神奈川県立こども医療センター	港南台病院	松島病院	藤沢湘南台病院	総計
頚部																											
甲状腺癌	亜全摘術					2						3	34									1				2	42
	全摘術											1	39														40
	その他											3															3
甲状腺腫	亜全摘術					2																					2
	葉切除術			1								3	10													45	59
	その他																										0
正中頚嚢胞	切除術																						3				3
耳下腺腫瘍																											0
その他												5	20							2			2			10	39
乳腺																											
乳癌	拡大乳房切断術（＋形成）																										0
	定型的乳切術（＋形成）														2	8											10
	非定型的乳切術（＋形成）	37	126	14	51	43	7	19	42	146	71	125	18						25	3		206				8	941
	部分切除術（乳房温存）	33	84	4	77	55	3	2	37	94	66	92	40			4			13	4		126				14	748
	その他	1	2	1				4		1	6				64							7					86
乳癌局所再発	切除術（＋形成）	1	3		3	1			3	4		4							1			9					29
	その他	1								2										1							4
良性腫瘍	単純乳切除術										1	37	1				5										44
	腫瘤摘出術		8	3	19	7			6	14	6		1	1		2				3		46				12	128
	その他	5							6	1			5														17
その他			1			7				53				1												1	63
胸部																											
原発性肺癌	肺切除術																										0
	肺葉切除術					27																				1	28
	部分切除術（胸腔鏡）					7																				6	13
	その他					2																					2
転移性肺癌	肺葉切除術					3																	1				4
	部分切除術（胸腔鏡）					6									5											9	20
	その他																						36				36
その他の肺腫瘍						7																	4				11
縦隔腫瘍	胸腺摘出術					3																					3
	その他					3							2										3				8
膿胸	ドレナージ術																									4	4
気胸	ブラ縫縮切除術					1																					1
	ブラ縫縮切除術（胸腔鏡）					15									2								1			16	34
その他	（肋骨腫瘍切除）					6																	3				9
食道																											
食道癌	食道抜去術	3				8																					11
	３領域郭清	2	3										5														10
	２領域郭清		9	2	6					4	1	2	3		2				11							1	41
	頚部食道＋喉頭全摘				1																						1
	その他				2			1				1	1						1					1			7
良性腫瘍	切除術																		1								1
食道静脈瘤	離断術																										0
	術中硬化療法																										0
その他	空腸瘻造設																		1								1
	噴門形成術		2	1																			30				33

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	茅ヶ崎市立病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター都立駒込病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	神奈川県立こども医療センター	港南台病院	松島病院	藤沢湘南台病院	総計
胃十二指腸																											
胃癌	腹腔鏡(補助)下噴門側胃切除術	4	9		1						5		1	1					14							5	40
	幽門側切除	5	13	23	12	21	8	8		14	18	7	20	1	10	4	5		11	3						14	197
	腹腔鏡(補助)下幽門側胃切除術	7	37	5	14	13				10	30	17	14		6	7	2		41	1							204
	幽門保存胃切除術				2	3																					5
	腹腔鏡(補助)下幽門保存胃切除術	1			5																						6
	胃全摘術	3	27	21	19	13	4	11		18	12	13	23		6	4	5		16							6	201
	腹腔鏡（補助）下胃全摘術		15		1					3	2	4	3						8								36
	d																										0
	LUAE																										0
	PD																										0
	胃空腸吻合術	3		1	1		1	1		1	4		3						2	1						1	19
	腸瘻造設術	1	1		1	2						1								2							8
	部分切除術				1			1																		1	3
	その他（試験開腹術含む）	1	20	1	6	6		1		1	1	12	6						1							2	58
残胃癌	残胃全摘術	3	5	2	1	1	1	1		4	3	1							2								24
	残胃空腸吻合術																										0
	腸瘻造設術							1																			1
	その他				1																						1
胃粘膜下腫瘍	部分切除術		5	1	1	2	1	1		1	2									1							15
	腹腔鏡(補助)下部分切除術	1		4		2				7	3	3	1		4				17								42
	幽門側切除術												2														2
	胃全摘術											1															1
	その他	1									1																2
胃悪性リンパ腫	幽門側切除				1																						1
	胃全摘術																										0
	その他				1																						1
胃潰瘍	胃全摘術																										0
	広範囲胃切除術														1				1								2
	迷走神経切離術																										0
	胃部分切除術							1											1								2
	その他			5						1	3	8				1										3	21
肥厚性幽門狭窄	筋層切開																						12				12
十二指腸癌	PD		2		1	2				2	1																8
	胃空腸吻合術	2			1														2								5
	部分切除術											1															1
	その他			1		2				1																	4
十二指腸潰瘍	広範囲胃切除術																										0
	迷走神経切断術																										0
	単純閉鎖術										2	3	3														8
	単純閉鎖＋大網被覆術			1	3	1	1			4		1															11
	大網被覆術（腹腔鏡）	1				1				1						2											5
	その他									1																	1
十二指腸 GIST	部分切除術	3	2							1			1														7
その他			1	1						2			3	2									11	6			26
大腸																											
結腸癌	腸切除術	10	6	15	38	4	8	33		24	6	19	41		17	11	15		34	6						23	310
	腹腔鏡下切除術	40	163	51	81	85	16	6		46	131	67	84	2	10	9	10		108	6						26	941
	非切除人工肛門	6	7		2	1	4				19		3			1			4	4							51
	その他	1	1	1		1		4			7	1	1				2			1							20

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	茅ヶ崎市立病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター都立駒込病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	神奈川県立こども医療センター	港南台病院	松島病院	藤沢湘南台病院	総計
直腸癌	前方切除	0			5	2	4	13		2		1	29		19	5	5		5	3						3	96
	ISR					1											1										2
	腹会陰式切除術	0		2	1	3	2	2		1		1	9		1		2									4	28
	腹仙骨式切除術	0				3									1												4
	仙骨腹式切除術																										0
	骨盤内臓全摘術	2																									2
	腹腔鏡下切除術	33	106	25	58	34	2	3		31	65	34		1	5	2	5		52	2						14	472
	非切除人工肛門	3	11	3	7	4		13		4	6	2	7		1	5			7							13	86
	その他（Hartmann を含む）		6	1	2	8		4		8	6	3	9	1		1			3							2	54
肛門癌	直腸切除術				1					1									1								3
	局所切除術	1		1						1									4								7
	非切除人工肛門	1			1	1				1																	4
	その他																										0
再発結腸癌	腸切除術				1	1				1	1	3				1			3								11
	非切除人工肛門		1					3									2										6
	その他	3	4		5					1	2								1								16
再発直腸癌	直腸切除術	1	2		1							2															6
	骨盤内臓全摘術																										0
	局所切除術											1			1												2
	鼡径リンパ節郭清術		3		1							1															5
	非切除人工肛門																2										2
	その他			1	1					1	1																4
結腸ポリープ	腸切除術（腹腔鏡を含む）	1		1	3						2								5								12
	腸切開ポリープ切除術																										0
	その他																										0
直腸ポリープ	腸切除術				1	1					1																3
	腸切開ポリープ切除術																										0
	経肛門的切除術											1							2				1		39	14	57
	その他																										0
肛門ポリープ	切除術					1	2							1		2			3	1					240	7	257
大腸憩室炎	切除術			2	10	3	1			7	5	7	4	2	3	2			4	1							51
	ドレナージ術										1		1						1								3
	その他		1								1								2								4
大腸カルチノイド	切除術	1	11	1	1	1				1	1								3								20
大腸悪性リンパ腫	切除術				2														3								5
人工肛門状態	閉鎖術	13	46	4	43	8	4	2		8	42	24	37		12	4	25		32	3			6			9	322
	造設術	15								2													13				30
潰瘍性大腸炎	大腸亜全摘術	1	21		7																						29
	大腸全摘術		20		57																						77
	残存直腸切除術		9		15																						24
	空腸部分切除術				3																						3
	その他		8		9																						17
Crohn 病	小腸部分切除		20		56							1															77
	結腸切除術	1	7		86																						94
	その他（Seton）		7		21																				55		83
腸結核			1																								1
Meckel 憩室	切除術		1	1	1																		6				9
小腸腫瘍	切除術	1	1		2		1			2	2	5				1			3				1				19
	その他																										0
その他		5	13	7						6	44	18	19			2				1			12				127

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	茅ヶ崎市立病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター都立駒込病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	神奈川県立こども医療センター	港南台病院	松島病院	藤沢湘南台病院	総計
肛門																											
痔核	結紮切除術		3	3	4		5	2			6	3			3	4	5		52	2			2		2495	187	2776
	PPH 法																										0
痔瘻	根治術				3		1				4				3		5		34	3			1		1577	73	1704
肛門周囲膿瘍	切開排膿術	1	3	1				1		1	1	1		2	4	3			6	1			1		619	43	688
裂肛					1														4						349	39	393
直腸脱	Gant－三輪法など	1	3		23	1	2				6	3		1	2	1			6						494	25	568
肛門狭窄																			4				2		494	21	521
その他			7								5		2	1		1			3				17	2	1246	5	1289
消化管その他																											
急性虫垂炎（幼児）	虫垂切除術	2		15	26	25	4				3	6	12										8				101
急性虫垂炎（成人）	虫垂切除術	7		37	61	43	16	40		63	73	56	79	6	27	25	5		44	14						59	655
腸閉塞	癒着剥離術	8	4	10	15	3	3	6		15	18	23	55	1	10	4	5		8	1			6			8	203
	腸切除術	5	1	8	33	5	6	17		6	15	11	21		4	6			18				1			8	165
	吻合術	4		1	3	1	1			2		2			2				2							1	19
	その他（人工肛門造設）	5		1							9	2							1								18
腸重積	整復術														1												1
	腸切除術				2					3		1											1				7
縫合不全	腸切除術		1			1	1			1	1															1	6
	ドレナージ術									1	2	2	3			2											10
	人工肛門造設術		4	2	5					4	1	7							1	2						1	27
穿孔性腹膜炎	人工肛門造設術	2	2	7	15	6	6	3		8	10	10			4	2			5	1			1			18	100
	ドレナージ	4	4	11		9	1				7	10	21			1			8	1			2				79
残胃穿孔	ドレナージ												1														1
腸間膜腫瘤（腸切）		1										1			2					1							5
その他		1		3			5			21		5			1	7											43
肝胆道																											
原発性肝癌（HCC）	肝切除術	27	17	11	3	9				6	18	13	4		3	1	1	28	2	1			5				149
	肝動注																										0
	その他	1			1			1		1		3															7
原発性肝癌（CCC）	肝切除術	5	3	5	1	1				2		1	1					9									28
	肝動注																										0
	その他	5										1															6
転移性肝癌	肝切除術	21	27	10	12	12				12	18	12	6		14		3	37	19	2			1			10	216
	肝動注																										0
	その他	2			2						1																5
胆嚢癌	胆嚢摘出術	1	1	1	3	1				1	2	1															11
	胆嚢床切除	3	3		3	2	1			1	3	1			1	2	1	6	2								29
	S４下５切除			3						2	1	1															7
	拡大肝切除術												5														5
	肝切除＋PD												1														1
	その他	5		1								3															9
胆管癌	PPPD（＋肝切除）		4										8					9									21
	PD（＋肝切除）	8		3	2	2		2		5	3	2	4						3							2	36
	総胆管空腸吻合術																										0
	その他	2				1													1								4
乳頭部癌	PPPD				1													6									7
	PD	3		2	1			1		3	1	1	1		1	1			3								18
	胃空腸吻合術																										0
	その他（試験開腹）	1				1																					2

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	茅ヶ崎市立病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター都立駒込病院	ＮＴＴ東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	神奈川県立こども医療センター	港南台病院	松島病院	藤沢湘南台病院	総計
肝門部胆管癌	肝切除術	14		1													1		1							1	18
	拡大肝門部胆管切除+PD	4								1																	5
	胆管切除																									2	2
肝血管腫	肝切除術	2			2	2									1												7
肝嚢胞	肝切除術		1										1														2
	開窓術	2		2		3					1	3	2				1			1							15
肝膿瘍	ドレナージ術			3													2										5
	開窓術																										0
肝内結石	肝切除術									1		1						1	1								4
	その他																										0
胆嚢結石	開腹胆嚢摘出術		6	26	20	1	5	31		33	10	26	12	2	7	1	2		6	5						5	198
	腹腔鏡下胆摘術	1	2	67	59	108	38	15		118	171	72	149	11	42	34	25	76	105	10			3			63	1169
総胆管結石	胆総胆管切開術（T）		2	2			1	1								1										1	8
	胆総胆管切開術（R or C）	2		10		1						1			3											4	21
	胆摘経胆嚢管的切石																	3									3
	その他										5															1	6
胆嚢ポリープ	開腹胆嚢摘出術										3								2								5
	腹腔鏡下胆摘術	1	2	2	7	6	2			6	2	5	10	1		2	2		21	1							70
	その他																										0
総胆管嚢腫	嚢腫切除胆道再建		1	1		1						1											5				9
膵胆管合流異常	胆嚢摘出術	2	1		2																						5
	その他	5																									5
生体肝移植																							1				1
その他（良性乳頭部胆摘総胆管切開術（R）		2		4	1						15												8				30
膵臓・脾臓																											
膵癌 (IPMN, MCN を含む)	PD	28		12	9	5		2		9	4	7	8	1	1	1		7	15							2	111
	PPPD		5		1													17									23
	TP	1		1														3	2								7
	膵体尾部切除	12	6	4	5	6	1	1		4	5	2	7		2			23	19								97
	部分切除	4			1					1			1					2									9
	試験開腹・生検	39						2																			41
	消化管バイパス手術	1		1	1													8	3								14
膵嚢胞	切除術									1	1																2
慢性膵炎	PD																										0
	PPPD																										0
	その他	1				5						1															7
ITP	脾臓摘出術（開腹）	1										2															3
	脾臓摘出術（腹腔鏡）	2										1	1						1				1				6
その他				2						1		1	1	1					3				2				11
ヘルニア																											
腹壁瘢痕ヘルニア	根治術		1	4	7	20	1	4		6	9	6	9	2	2	3	12		18	4			2			10	120
臍ヘルニア	根治術				1	61	1			4		2	5	3	1		3		6	2			34			5	128
鼡径ヘルニア（幼児）	根治術			6	1	1	5				3	7	9										224				256
鼡径ヘルニア（成人）	根治術（従来法）				4	61							87						185	1						15	353
	根治術（腹腔鏡）	1		12						48	20	14	89	68	55	15	12			18						80	432
	メッシュプラグ			84	147		7	65		110	129	5	2			37	20			3							609
	PHS											3															3
	その他				2	1	64				39	60		42	9		90			4							311
大腿ヘルニア	根治術			5	9	5		2		9	6	3			1		5		1								46
閉鎖孔ヘルニア	根治術			1	4	1	1	3		3	3	4	4						1							2	27
その他				4	7	2							6	1													20

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	茅ヶ崎市立病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター都立駒込病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	神奈川県立こども医療センター	港南台病院	松島病院	藤沢湘南台病院	総計
血管																											
下肢静脈瘤	Stripping														20												20
動脈血栓症	血栓摘出術														1												1
腸間膜動脈血栓症	腸切除術			3																1							4
門脈塞栓術		5			3					1							1										10
肝動注カテーテル抜去		3																									3
その他		2		40			10				66	3		4	42	1				26				9			203
術後出血	開腹止血	2		1			2	1				1	2						1	1							11
	開胸止血																										0
後腹膜・腎																											
後腹膜腫瘍	腫瘤切除	2		3				1		1	2	4	1		1				3	1			5				24
その他		1		6			1			2	1		18														29
体表				9				12			22			2	16	27	30		18					10		44	190
その他		3		10				3		6	41	35	44			2	20			26						1	191

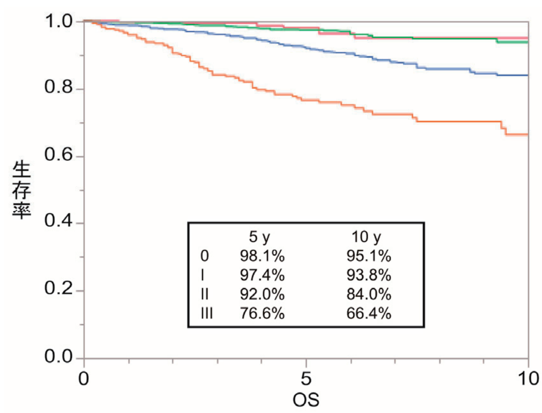
疾患別5年生存率

乳　　癌

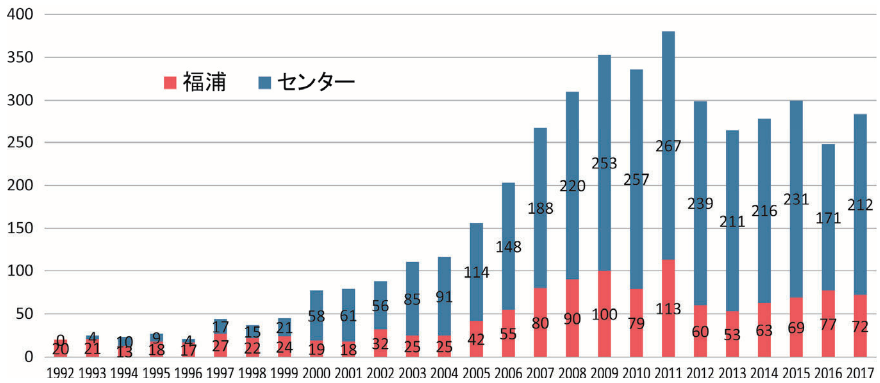
菅江貞亨、成井一隆

1992年から2017年までの横浜市立大学附属病院および市民総合医療センターで手術を行った症例について解析を行った。両施設合わせた病期別解析では、5年生存率が0期；98.1％　I期；97.4％　II期；92.0％　III期；76.6％であり、10年生存率は0期；95.1％　I期；93.8％　II期；84.0％　III期；66.4％であった。2017年原発巣切除件数は284件（附属病院72件、市大センター病院212件）であった。近年の傾向として温存術の割合が4割程度まで下がり、再建手術が2割を占めるようになってきた。今後もこの傾向は継続するものと思われる。2007年以降は毎年250-300件の手術をさせていただける環境となっており、今後もこの状態を継続できるように努力を続けていきたい。

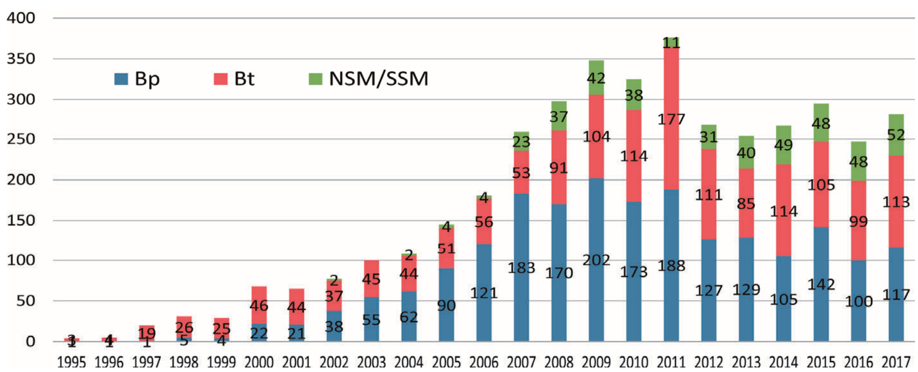
また、乳癌学会班研究、CSPOR、SNNS研究会などの全国的な臨床試験のほかに、YCOGやKBOGなど地域の臨床試験にも積極的に参加し続けている。今年度も関連各施設と連携しながら臨床試験にも取り組んでいきたい。



Overall Survival according to Stage



手術症例数の推移

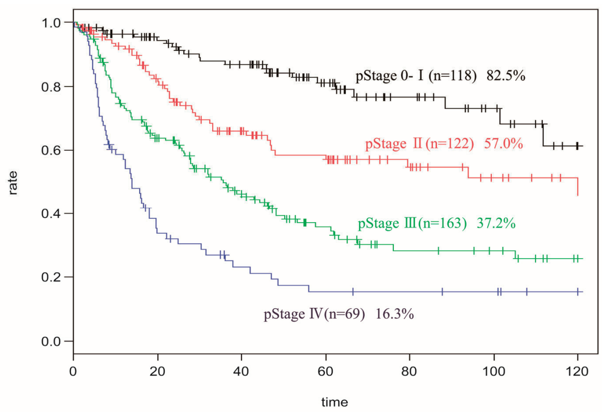


術式別手術症例数の推移

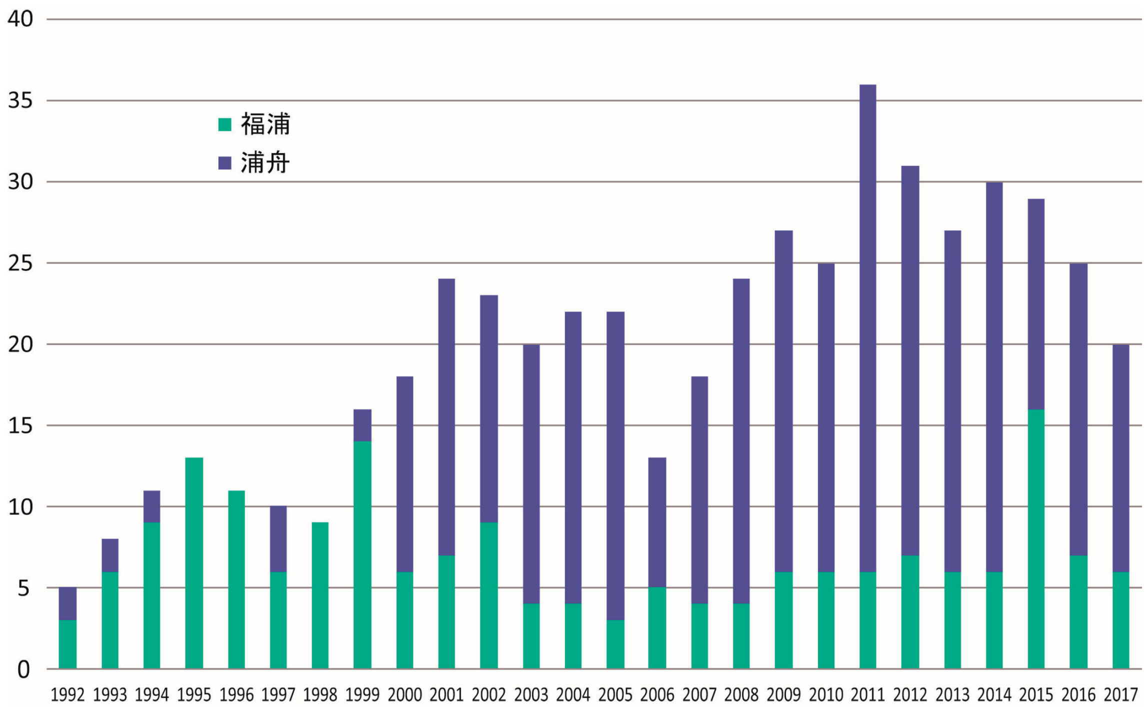
食　道　癌

小　坂　隆　司

2017年の切除症例は20例（福浦６例、浦舟14例）で1992年からの合計は517例であった。全切除症例の５年生存率は47.2％であった。Stage別の５年生存率は0-I=82.5％、II=57.0％、III=37.2％、IV=16.3％であった。cstageII, III進行食道癌に対して、以前は術前化学療法（NAC：FP療法）を施行していたが、２年生存率が44.4％と治療成績が好ましくないため、現在は、術前化学療法は行っていない。手術はセンター病院を中心に腹腔操作はHALS（Hand assisted laparoscopic surgery)、胸腔操作はVATS（Video assisted laparoscopic surgery）と低侵襲手術を行っている。



全切除症例の生存率　stage別



食道癌症例の年次推移（切除例）

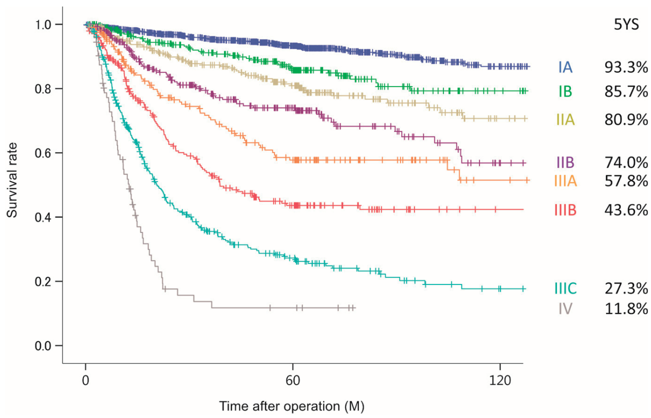
1992-2017　計517例

胃　　癌

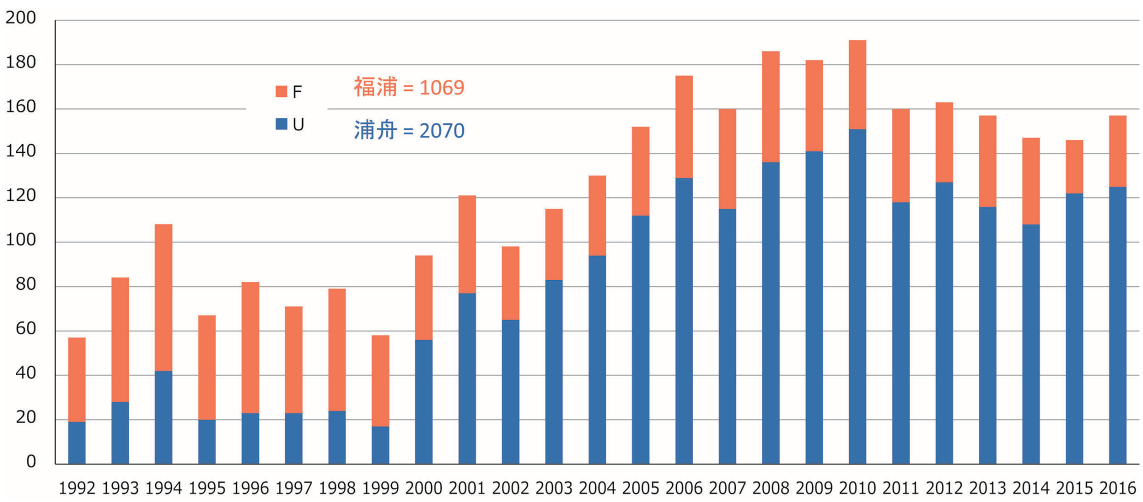
佐　藤　　圭

2017年の切除症例は131例（福浦23例、浦舟108例）であり、1992年からの合計は3270例となりました。全症例の５年生存率は74.3％でした。Stage別の５年生存率は、IA=93.3％、IB=85.7％、IIA=80.9％、IIB=74.0％、IIIA=57.8％、IIIB=43.6％、IIIC=27.3％、IV=11.8％であり、全国集計と比較して遜色ない成績でした。近年、腹腔鏡下胃癌手術症例は半数以上を占めるようになってきており、2017年は51.1％が腹腔鏡下手術でした。これにより腹腔鏡下胃切除術は合計で1031例に達しました。今後も手術の低侵襲化と周術期成績の向上に努めていきたいと考えております。

臨床研究に関しては、YCOGにおいて化学療法や術後障害に関する試験を行っております。今後も関連各施設と連携しながら臨床研究をすすめていきたいと考えております。



胃癌Stage別生存率



胃癌切除症例の年次推移

1992-2016　計3139例

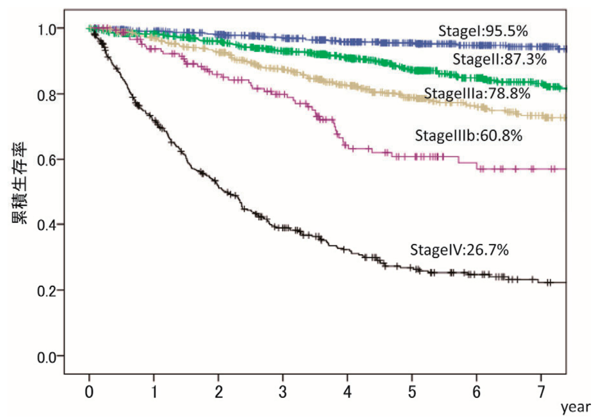
大腸癌

石　部　敦　士

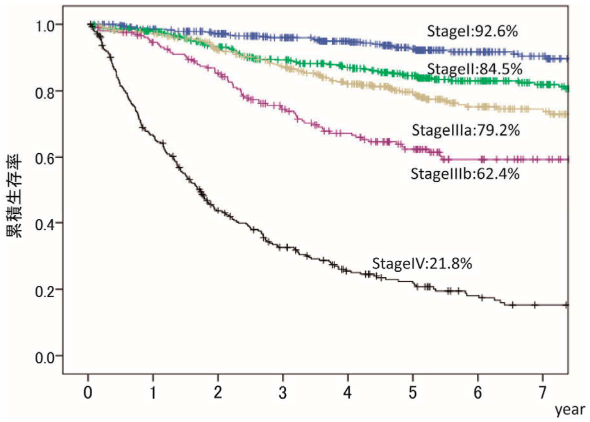
2017年の手術件数は福浦108件、消化器病センター340件、合計448例で、両施設合わせて初めて400例を超えました。1992年から2017年での合計は6962例となっています。Stage別の５年生存率は結腸癌：Ⅰ＝95.5％、Ⅱ＝87.3％、Ⅲa＝78.8％、Ⅲb＝60.8％、Ⅳ＝26.7％（手術症例のみ）、直腸癌：Ⅰ＝92.6％、Ⅱ＝84.5％、Ⅲa＝79.2％、Ⅲb＝62.4％、Ⅳ＝21.8％（手術症例のみ）でした。

本年は、当科の若手外科医である諏訪雄亮先生、鈴木紳祐先生、渡部顕先生の３名が難関である内視鏡外科学会技術認定医に合格しました。各関連病院でご指導いただいた先生方、一緒に手術に入っている後輩の先生方のご協力があってのことと感謝申し上げます。

近年、腹腔鏡のみならずtaTME、Robot手術といった直腸癌に対する新しい手術アプローチ法が注目されています。2018年４月からはロボット支援下直腸癌手術が保険適応となるため、新しい外科の時代が始まろうとしています。一方、局所進行直腸癌に対する集学的治療は未だ標準化されておらず、側方郭清の適応、術前治療の有用性など、まだ解決すべき問題が沢山あります。当科でもYCOGを中心に多数の多施設共同研究を行い治療成績の向上に努めております。本年も大腸癌治療の成績向上を目指し、新しいevidenceを確立できるように、手術手技、知識の研鑽、後進の育成に努めていきます。

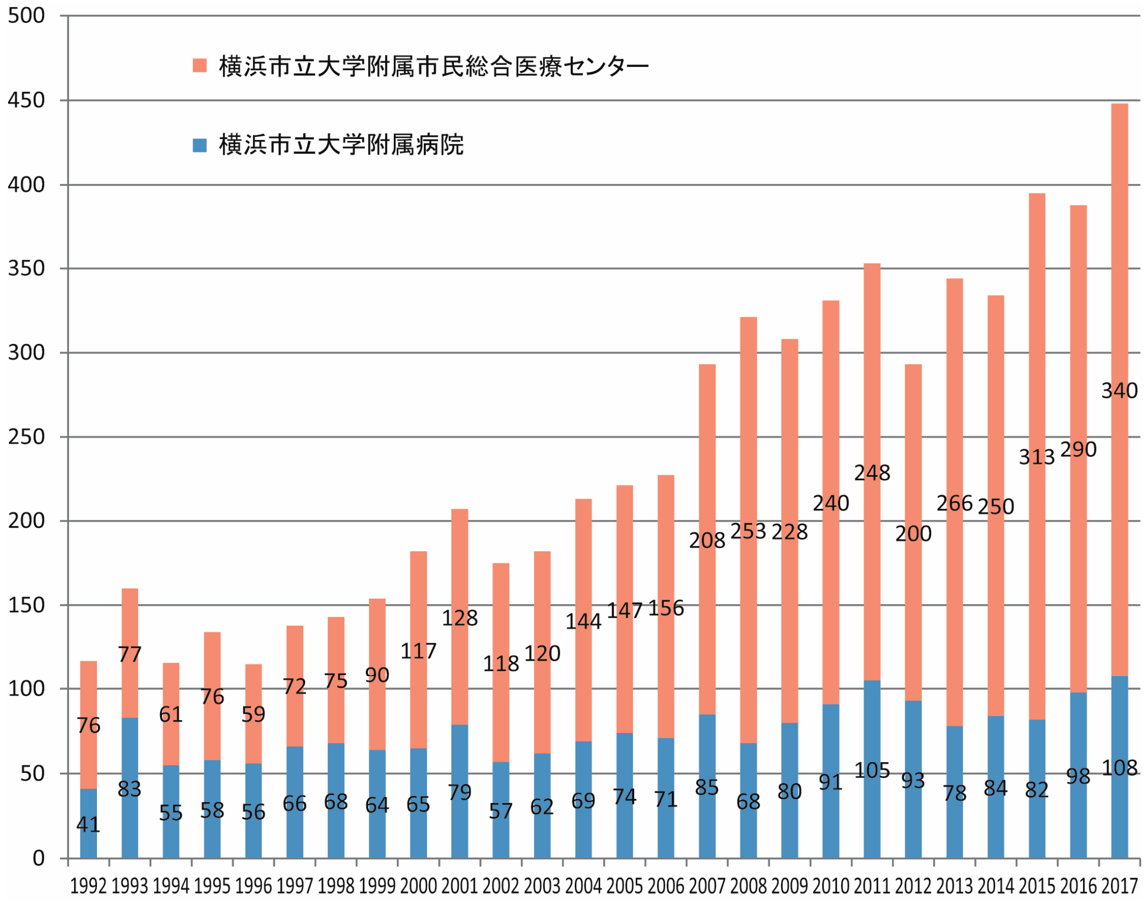


結腸癌　Stage別５年生存率



直腸癌　Stage別５年生存率

taTME



手術件数推移（1992-2017）

炎症性腸疾患

木　村　英　明

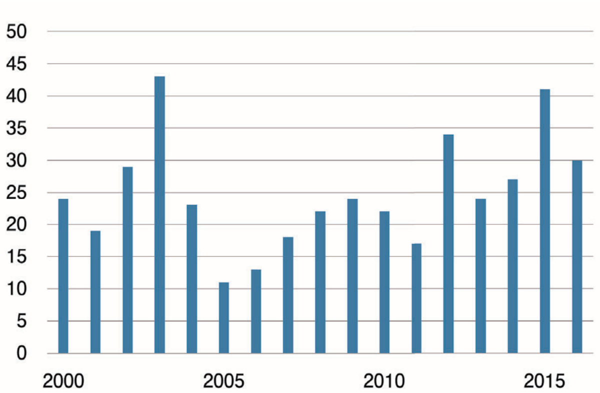
2017年のセンター病院炎症性腸疾患（IBD）センターの総手術件数は103件でした（潰瘍性大腸炎初回手術41例、２期目再建手術９例、Crohn病34例、その他腸管Behcet病／単純性潰瘍、腸結核など）。

2000年からの潰瘍性大腸炎の累積手術例は464例、当科初回手術例は449例で、手術適応は難治292例（65％）、重症123例（27％）、癌、dysplasia34例（８％）、1期的手術は249（55％）、このうち腹腔鏡補助下手術（HALS）は135例（30％）（2007年以降は１期的手術の88％）、緊急手術は118例（26％）でした。術後排便機能は経時的に回復し、術後1年における一日排便回数は7.7±3.0、漏便（soiling）は14％で、回腸嚢使用例の回腸嚢機能率は10年で98.2％でした。

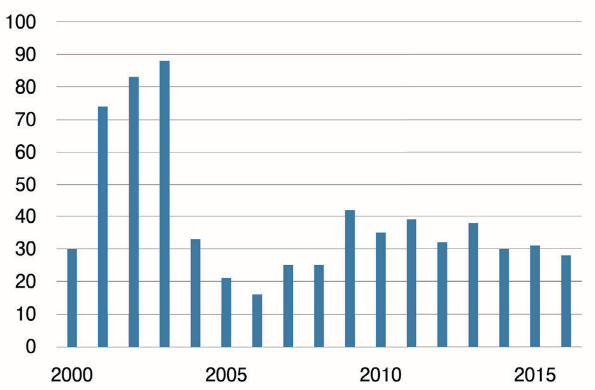
2000年からのCrohn病の累積手術例は708例で、腸管病変に対する手術は617例、標準術式は小範囲切除、狭窄形成術で、131例（21％）を腹腔鏡補助下手術でおこないました。肛門病変に対する手術は143例で、標準術式はseton法ですが、42例（29％）に人工肛門造設をおこないました。腸切除例における５年累積再手術率は12.6％、10年累積再手術率は34.0％でした。

術後生物製剤導入例で短期の再手術率は低下しましたが（３年再手術率、術後生物学的製剤投与あり：なし＝4.3％：13.0％、p=0.029）、長期経過では差はなくなってきました（５年再手術率、投与あり：なし＝10.4％：15.5％、n.s.）。生物学的製剤は長期使用による二次無効（効果減弱）が問題となっており、今後登場しつつある抗TNF α 製剤以外の生物学的製剤の治療効果が期待されます。

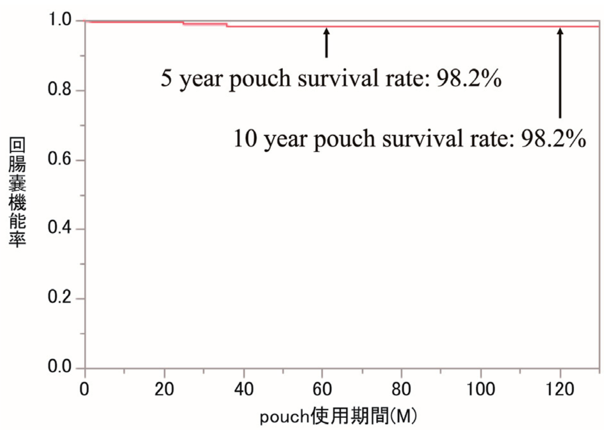
引き続き安全でQOLの高い手術をおこなっていきます。



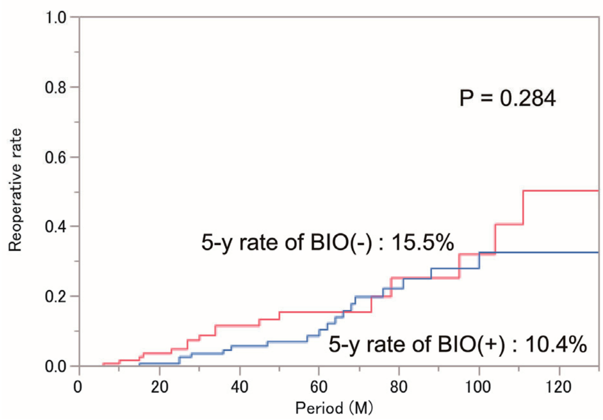
潰瘍性大腸炎初回手術症例数の年次推移



Crohn病手術症例数の年次推移



潰瘍性大腸炎術後回腸嚢機能率（n = 382）



Crohn病　術後治療別再手術率（長期）

原発性肝癌

熊　本　宜　文

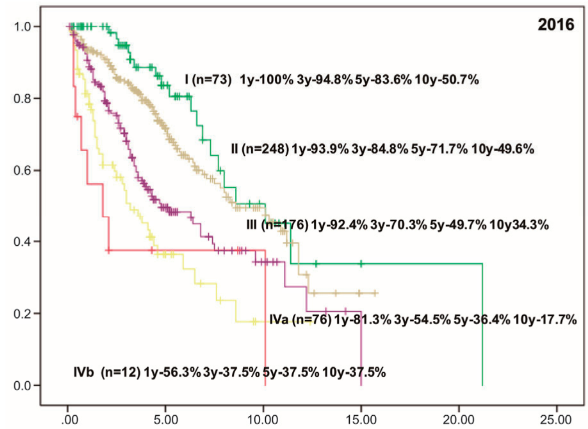
我国では1989年から輸血用血液のＣ型肝炎のスクリーニング、住民を対象とした肝炎ウイルス検査を開始し、自覚症状のないHCVキャリアの拾い上げを積極的に行ってきた。さらに、Ｃ型慢性肝炎の治療に関しては直接作用型抗ウイルス薬の登場によりウイルス排除率は上昇してきている。このため、Ｃ型肝炎持続感染に起因する肝細胞癌は全国的に減少傾向にあるが、非Ｂ非Ｃ型（NBNC）肝癌症例は増加傾向にある。NBNC肝癌の多くは大量飲酒や非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）由来であり、特にNASH由来の肝癌症例では、ウイルス性肝炎症例と比較すると肝機能は保たれているものの、定期経過観察がなされていないため腫瘍径が大きく約20％の症例で10cmを超えていた。また併存症として糖尿病や虚血性心疾患の合併もウイルス性肝炎患者と比較すると有意に多く、周術期管理に注意が必要であった。

術前肝機能評価に関しては、アシアロSPECT/MDCT融合画像による分肝機能評価を行い、術前肝不全予測に応用している。特に門脈塞栓術後は、体積変化以上に肝機能は非塞栓葉へ移行しており適応の拡大の可能性が示唆されている。

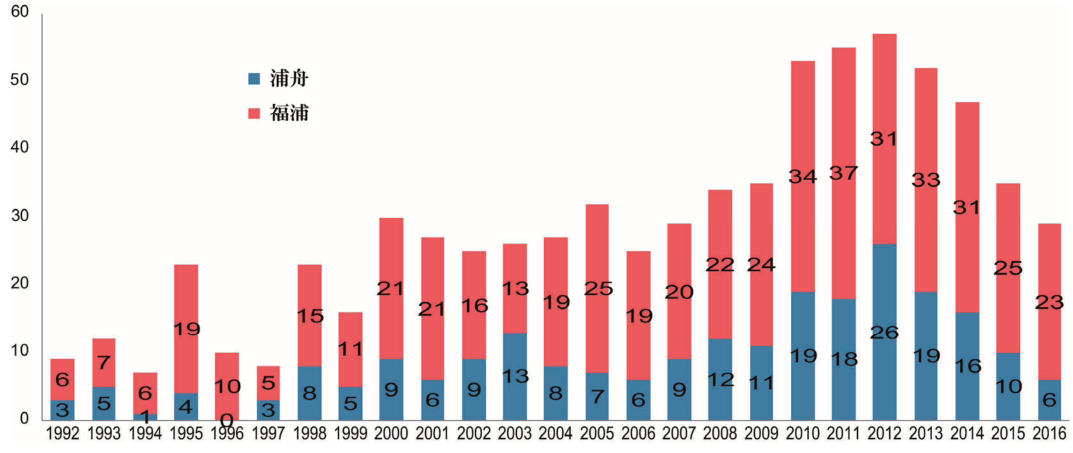
術後管理に関しては肝不全死予防のため、早期予測、早期介入を目指しており、術直後のT.Bil>1.5かつAT-III<50はISGLS定義の肝不全B,Cとなる危険群であり早期介入が必要と考えている。

1992年から2016年までの587例の切除例のうちR2切除を除外したStage別５年10年生存率はそれぞれ、StageI：83.6％、50.7％、StageII：71.7％、49.6％、StageIII：49.7％、34.3％、StageIVA：36.4％、17.7％であった。予後規定因子は、肝内転移陽性、Liver damage BC、AFP400以上、腫瘍個数４個以上、最大腫瘍径50mm以上であった。

基礎研究では、動物モデルを用いた肝再生、肝不全の病態解析並びに治療を継続しており、肝不全の新たなる治療を模索している。



初回肝切除症例Stage別生存率
（癌遺残、在院死、Ablation単独症例除く、N=587）



肝細胞癌手術症例数年次変化

転移性肝癌

澤田　雄、熊本宜文

当科では、大腸癌肝転移に対して、1985年より2016年末で636例に初回肝切除を実施してきました。2016年は初回肝切除27例、再肝切除５例の肝切除を施行し、非大腸癌症例を含めると、累計34例（福浦25例、浦舟９例）の肝切除を施行しました。大腸癌肝転移初回肝切除症例の５年生存率は50.5％でした（図１）。さらに、残肝再発症例に対しても、積極的な再肝切除療法を施行しており、100例（累計）の患者様に対し、切除を実施してきました。５年生存率は42.4％で、良好な成績を保っております。

現在の課題は、他院で、切除不可能と判断された肝転移症例に対し、化学療法・術式を組み合わせることで、切除を可能にすることと考えています。

1）両葉多発腫瘍（４個以上）　2）巨大腫瘍（≧8cm）　3）腫瘍脈管の浸潤している腫瘍　4）予定残肝が小さい場合　5）肝蔵以外に転移巣が存在する場合には、切除困難例と判定されることが多いですが、当院では、このような患者様に対し、臨床腫瘍科とも密に連携し、術前化学療法を実施することで、腫瘍の縮小後に、肝切除を実施する戦略をたてています（図２）。

さらに、切除後の予定残肝が小さい場合には、肝臓の再生能を利用して、門脈塞栓術併用切除を含めた多段階肝切除や、3D画像を利用した血管合併切除併用肝切除を実施しています。

また2017年より大学では肝臓内視鏡外科研究会の前向き登録参加施設であり、亜区域切除以上の肝切除も健康保険で施行可能となっております。現在腹腔鏡下肝切除の適応は片葉分布としておりますが、腹腔鏡手術ご希望の患者様がいらっしゃった場合はご紹介のほどよろしくお願いいたします。

以上のような工夫をしながら、当科では、大腸がん肝転移の患者様に対し、最大限安全な手術療法を施行しており、さらに、臨床腫瘍科・大腸グループとも、連携しながら、診療をすすめております。また、大腸がん肝転移症例の他に、婦人科疾患、神経内分泌腫瘍、胃癌などからの肝転移の患者様に対しても、肝切除が有効な治療となる場合があり、このような場合には、積極的に切除療法を選択しています。

Survival rate; 1-y 89.9%, 3-y 63.0%, 5-y 50.5 %

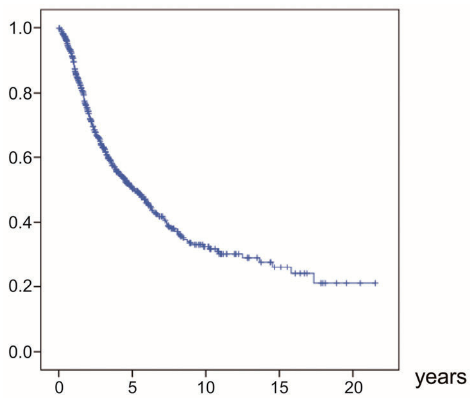


図１　大腸癌肝転移初回肝切除後生存率

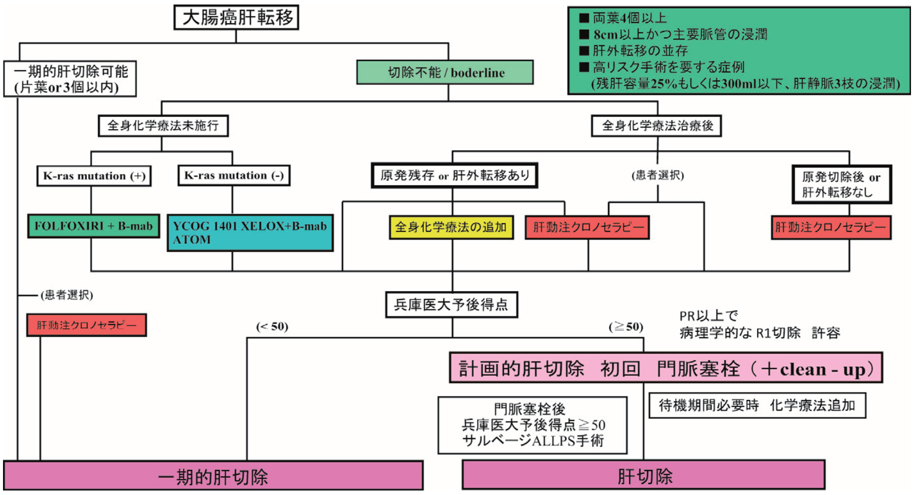


図２　当科での
大腸癌肝転移治療方針

胆道悪性疾患

村　上　　崇

胆道悪性疾患の本年度の切除手術症例数は肝門部領域胆管癌21例、胆嚢癌７例、遠位胆管癌11例、十二指腸乳頭部癌３例、末梢型肝内胆管癌４例、合計46例で1992年からの累積胆道癌切除数は728例となった（図１)。横浜市内・神奈川県下から多数の貴重な症例をご紹介頂き、胆道癌切除数は増加傾向である（図２)。いずれの症例も他院では治療が困難と判断されており、術前治療から胆道ドレナージなどの管理、手術、術後補助化学療法に至るまで様々な難しい問題を解決していかなければならない。消化器内科、放射線科と協力しながら診療にあたり、胆道癌全体の５年生存率：45.1％、10年生存率：32.8％、MST：44.5ヶ月となっている（図３)。肝門部領域胆管癌は1992年からの切除数は252例となり、切除症例全体の５年生存率は38.7％、MSTは37.4ヶ月であった。胆嚢癌は1992年からの切除数は145例となり、切除症例全体の５年生存率は52.1％、MSTは63.2ヶ月であった。遠位胆管癌は1992年からの切除数は142例となり、切除症例全体の５年生存率は31.0％、MSTは33.5ヶ月であった。十二指腸乳頭部癌は1992年からの切除数は118例となり、切除症例全体の５年生存率は64.4％、MSTは103.4ヶ月であった（図４)。

胆道癌に対する手術はいずれも高難易度手術であり、術後合併症率や死亡率も他疾患に比べて多いことが問題である。2008年４月から行っている切除可能境界胆道癌（borderline resectable）に対する術前化学療法症例は2017年12月で117例となった。うち79例（67.5％）に切除術を施行し、切除例の３年生存率60.1％、５年生存率49.1％と効果が期待できる経過である。一方、初診時に局所の過伸展や遠隔転移を有するために非切除と診断された胆道癌に対しても半年から１年間の化学療法を行い、病勢が進行しなければ積極的に切除を行っている。このような切除不能胆道癌（Initially unresectable）は2007年から合計87例おり、うち21例（24.1％）にConversion surgeryを施行した。Conversion surgery施行例の５年生存率は72.8％と良好で、非施行例の５年生存率（9.3％）に比べ有意に延長していた。技術的に困難な手術を施行しなければならないが、切除の可能性を常に考慮することが重要である。また、進行胆道癌に対する切除率向上を目指し、より強力な術前化学療法レジメンの導入を検討している。

胆道癌に対する最も効果的な治療法は外科的切除であり、術前化学療法、放射線療法、術後補助化学療法、胆道ドレナージ術、胆管炎のマネージメントなど多岐にわたる手技と知識が必要である。胆道癌治療成績向上を目指し、今後も手術手技の研鑽、知識の向上、臨床研究、教育に貢献していきたい。

肝門部領域胆管癌	:	252例
胆嚢癌	:	145例
遠位胆管癌	:	142例
十二指腸乳頭部癌	:	118例
末梢型肝内胆管癌	:	71例
計		728例

図１　累積胆道癌切除数

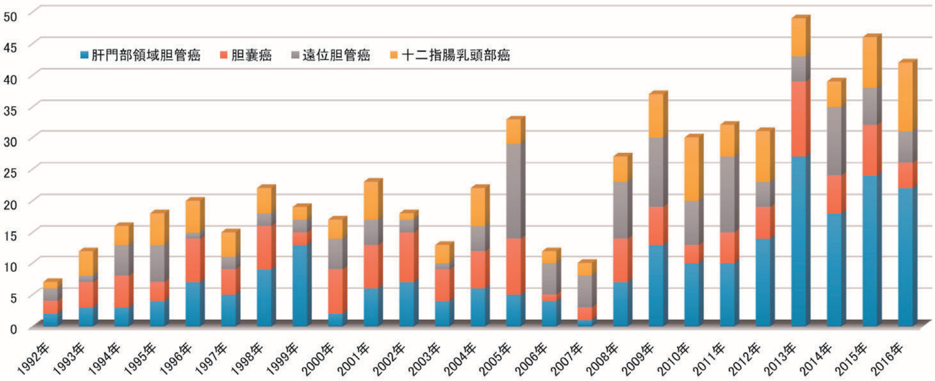


図２　胆道癌切除数　年次推移

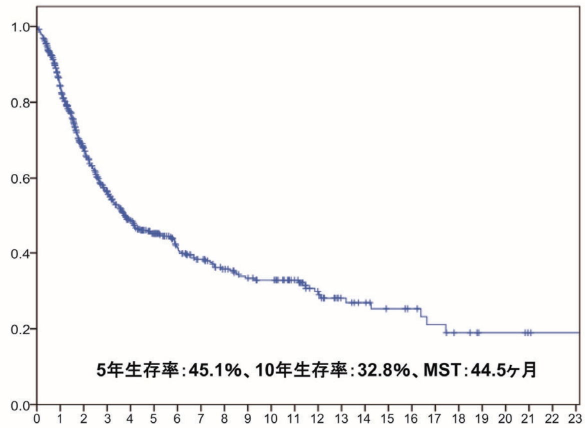


図３　1992年４月～2017年12月の胆道癌症例
切除後生存曲線

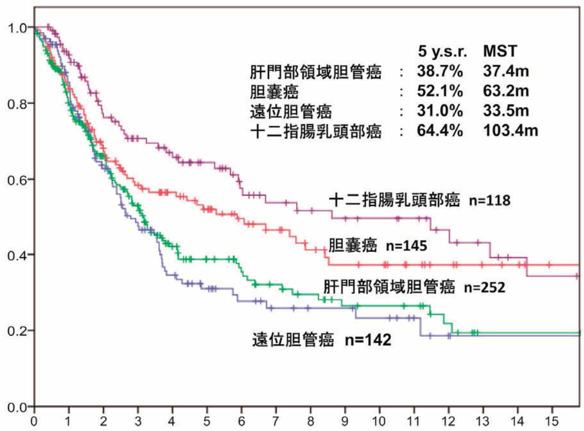


図４　1992年４月～2017年12月の胆道癌症例
部位別切除後生存曲線

膵　　癌

藪　下　泰　宏

2017年度の膵癌切除は55例（福浦44例、センター11例）であった。

以下は2016年までの症例数を示す。2015年は過去最高の57例であり、減少はあったものの全体的には症例数は年々増加傾向である（図１）。累積症例数は全体で725例、切除率は65％であった。術式の内訳は膵頭十二指腸切除35例、膵体尾部切除12例であった。その内血管合併切除再建を必要とした症例は20例（門脈合併切除再建16例、動脈切除再建４例）であった。切除例全体の５年生存率は25.4％であった。切除例のfStage別の生存曲線は図２の通りであった。

膵癌のResectability毎の予後はResectable膵癌の生存期間中央値は24.1ヶ月、５年生存率は25.4％、Borderline resectable膵癌で術前加療後に切除施行した症例の生存期間中央値は24.7ヶ月、５年生存29.6％、unresectable膵癌で切除が可能となった症例の生存期間中央値は26.3％、５年生存率は20％であった。

現在の当科での膵癌に対する治療方針を表に示す。Borderline resectable膵癌に対してはGemcitabine＋S-1療法から2016年度よりGemcitgabine＋Nab-paclitaxelによる術前化学放射線療法を施行している。Unresectable膵癌に関しては2014年度よりYCOGによるCFLAP studyとしてFOLFIRINOX療法を導入し切除率・生存率の向上を目指し症例集積中である。

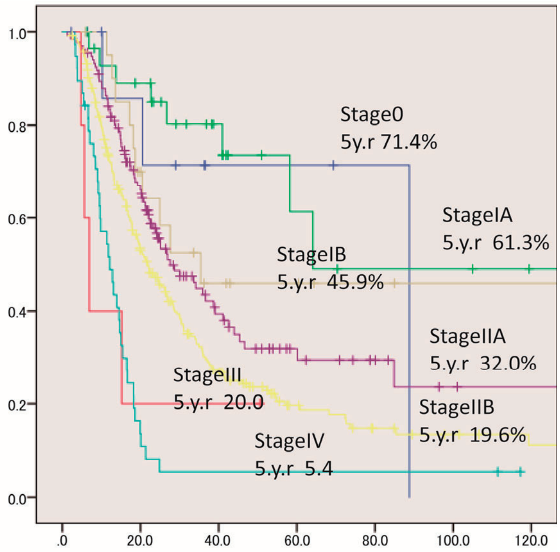


図２　切除例Stage別生存曲線

表　教室における膵癌治療方針

◆ <u>Resectable (R)：</u> Straight-forward surgery

◆ <u>Borderline resectable (BR)：</u>
Surgery after NACRT　　2008-2015 GEM+S-1
　　　　　　　　　　　　2016-　　　GEM+nab-PTX

◆ <u>Unresectable (UR)：</u> Long-term chemotherapy
・GEM+S-1
・GEM+nab-PTX
・FOLFIRINOX

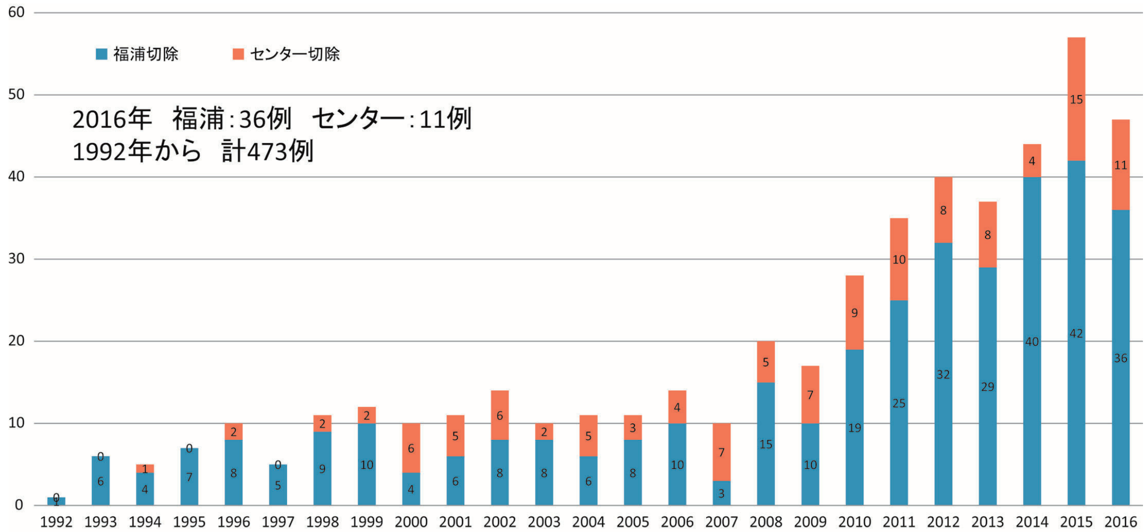


図１　膵癌切除数　年次推移

生体肝移植

澤田　雄、熊本宜文、武田和永

当院での肝移植は、1997年にはじまり、2018年1月現在、計64例です。2017年は肝移植コンサルテーション5件ありましたが、生体ドナーの不適格などで施行にいたりませんでした。現在、1年生存率は82.8％、5年生存率は73.2％（図1）と、良好な成績を維持しています。原疾患の内訳は、1. 肝細胞癌（n=14）、2. B型肝炎肝硬変（n=13）、3. 劇症肝炎（n=9）、4. 原発性胆汁性肝硬変（n=8）、5. C型肝炎肝硬変（n=6）、6. アルコール性肝硬変（n=5）、7. 原発性硬化性胆管炎（n=2）、8. 自己免疫性肝炎（n=2）、9. 胆道閉鎖症（n=2）、その他（n=3）となっています（図2）。

肝移植後は急性拒絶反応発症をおさえるため、免疫抑制剤の使用が必須です。しかし、その一方で、感染症合併率が、他の消化器外科手術に比較して高率といわれています。当院で施行した肝移植症例中、これまで周術期に約半数の症例が敗血症に陥りました。そこで、感染症予防の取り組みとして、術前からのリハビリ導入、シンバイオティクス栄養療法導入を導入しています[1)]。導入後の7例では、生存率100％を維持しています。一方、C型肝炎ウイルス再発や肝細胞癌再発などの原疾患再発治療に関して、退院後は、消化器内科、さらに臨床腫瘍科と連携して診療を行っています。

2010年7月にわが国では、改正臓器移植法が施行されました。その後、脳死肝移植数が急増し、改正後1年間で55例からの脳死肝臓提供がありました。一方、現在、成人に対する脳死肝移植実施施設は、全国19施設ありますが、関東地方では、慶応大学、順天堂大学、東京大学、信州大学の4施設です。現在、神奈川県下で成人の肝移植を行っている施設は当院のみで、かつ、横浜は、全国一番の人口を有する政令指定都市であるという社会的背景から、当院でも脳死肝移植施設認定を目指しております。また本学の地域貢献を考えた場合にも、必要なことと考え、これからも適切な症例があれば、肝移植治療を続けていくことは、当院での使命と考えます。関連病院の先生方より、可能性が少しでもあればまず紹介いただければと思います。また内科疾患のほか、Child C肝細胞癌症例（ミラノ基準内であれば保険、ミラノ基準外であれば自費診療）で、移植適応ありますのでご紹介のほどよろしくお願いいたします。

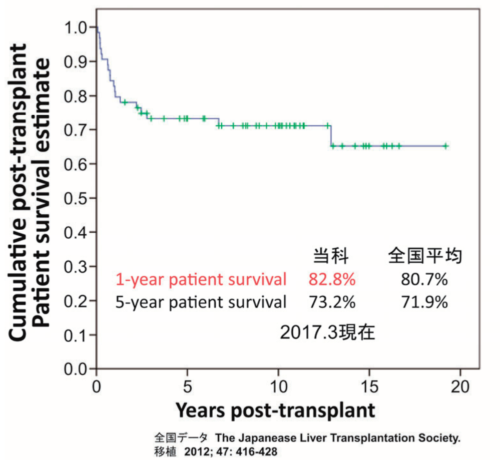


図1　肝移植後生存率

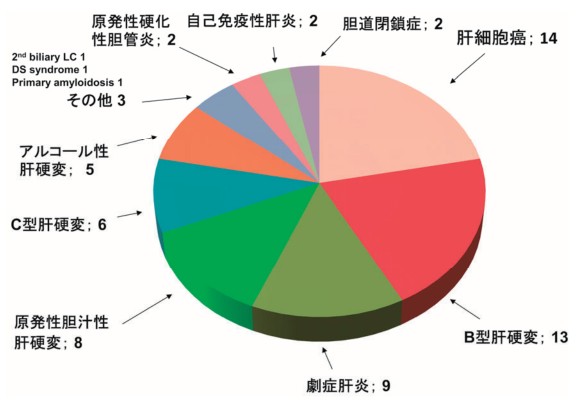
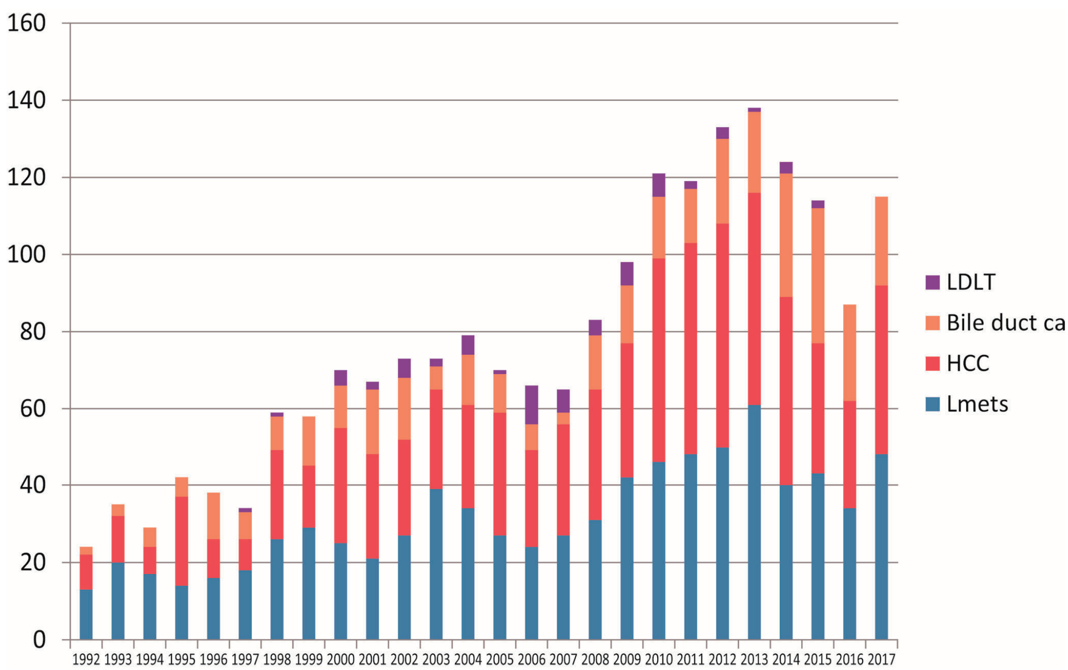
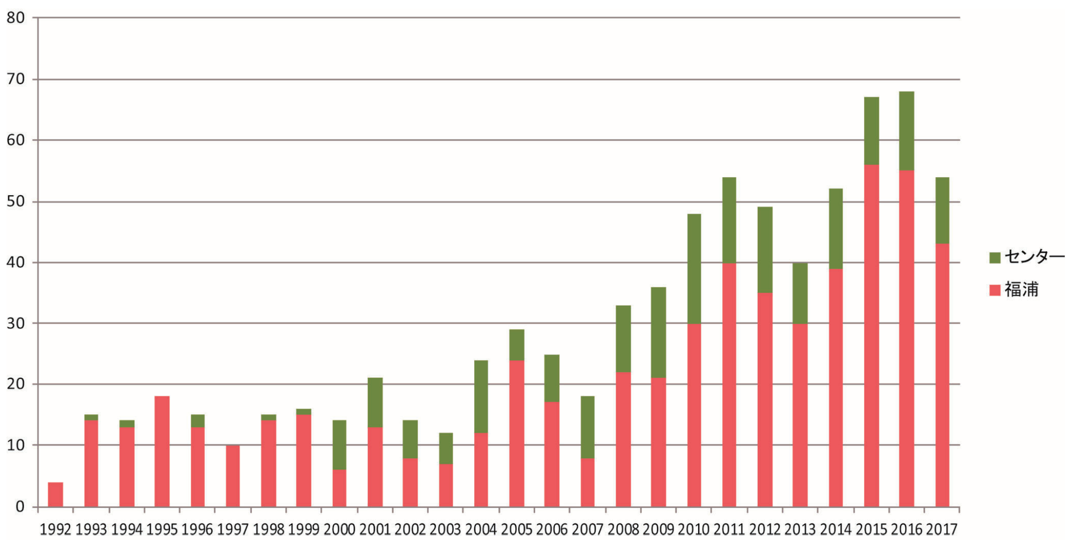


図2　肝移植症例原疾患の内訳

年間手術件数の推移



年間肝切除数の推移



膵頭十二指腸切除症例数